

関連するSDGs



### 基本的な考え方

生活者の皆様に、健康、快適、清潔・衛生を通じた顧客体験価値を提供するとともに、人々の健康や暮らしの基盤となる地球環境を守ることは、「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニー」を目指す当社として、重大な責任であると考えています。

当社は2013年に策定した環境目標「EcoVision 2020」のもと、持続可能な地球環境の実現を目指して、低炭素社会の実現、循環型社会の実現、自然との共生、および環境啓発に関する2020年目標の達成に向け取り組んでいます。

昨今では、2015年のパリ協定やSDGsの採択等を背景として、国内外での持続可能な社会に向けた動きが活発化しています。

こうした潮流を踏まえ、2050年に向けた新環境目標「LION Eco Challenge 2050」を2019年に策定しました。今後は、脱炭素社会、資源循環型社会の実現にチャレンジしていきます。



「暮らし、まいにち、エコ。」

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>

## 環境方針

当社は環境方針を、「経済発展と環境保全が両立する持続可能な社会を創造していくため、自主的、積極的に行動する」という「ライオン企業行動憲章」の精神に基づいて定めています。環境方針は、当社の環境活動の基盤となっています。

### 環境方針

製品の開発から原材料などの調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までのすべての過程で「地球温暖化防止のための低炭素社会の実現」、「資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現」、「人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生」に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動します。

#### 1. 持続可能な社会をめざす

環境マネジメントシステムを推進し、継続的な維持、改善により地球環境の保全を行う。

#### 2. 法的小およびその他の要求事項の遵守

環境保全に関する法規制や取り決めを遵守し、自主的な行動基準を設定して実行する。

#### 3. 環境目的、目標の設定と実施の検証

国内外における企業活動の環境影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、改善の目的および目標を設定するとともに、環境マネジメントプログラムを策定、実施し、その実施状況を定期的に検証する。

#### 4. 環境配慮製品の開発

ライフサイクルアセスメントの視点に基づき自ら定めた「ライオンエコ基準」に則り、環境に配慮した製品開発を積極的に推進する。

#### 5. お取引先との連携による環境負荷の低減

原材料調達先や外部生産委託先、販売先と連携し、仕入れからお客様への商品提供に至るまでのあらゆる段階で、環境負荷の低減に努める。

#### 6. 自然との共生

生物多様性や大気・水環境に配慮した事業活動を行うとともに、自然環境保護活動に積極的に取り組む。

#### 7. 全従業員への周知と環境保全活動の推進

関係会社を含め全従業員に環境方針を周知し、環境保全への意識高揚に努め、全従業員一体となって環境管理活動を推進する。

#### 8. 情報公開の推進

事業を取り巻くすべてのステークホルダーとのコミュニケーションの推進に努める。また、この環境方針は自由な閲覧を可能にして、要望する全ての人々に提供する。

(2013年1月1日改定)

## 環境マネジメントシステムと環境管理体制

### ●環境マネジメントシステム

当社グループの環境マネジメントシステムは、事業活動、製品やサービスが環境におよぼす影響を把握、評価、是正するとともに、環境保全活動を継続的に改善することを目的としています。

また、環境マネジメントおよび活動報告については、グローバルな環境対応を目指して体制の充実をはかっており、海外グループ会社の環境データをWebサイトにて公開しています。



関係会社工場環境負荷データ(海外)

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/environment-management.pdf>

### ISO14001認証取得状況

当社は2001年7月に全工場一括でISO14001の認証を取得しました。2016年6月には、ISO14001の2015年版への更新を行い、日本能率協会審査登録センター(JMAQA)の審査により、全工場が基準に適合していることが確認されました。国内および海外の生産系関係会社も含めて、全社的にISO14001の取得やISO14001に準じた運用を実践し、管理システムと環境保全活動を継続的に進めています。

## 汚染の予防

当社は、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)およびばいじんや揮発性有機化合物(VOC)などの化学物質の排出量削減にも自主的に取り組んでいます。また、排水処理設備の安定化と定期的な保全により、化学的酸



生産系事業所環境データ

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/domestic.pdf>

### ●環境管理体制

地球環境への負荷を軽減しながら、事業を成長させるため、2019年からは従来の「環境保全推進委員会」を新設した「サステナビリティ推進会議」に統合して、社長を含む業務執行役員と関係部門で構成されるメンバーで、環境問題への対応方針の審議を行い、推進状況のモニタリングを実施しています。

### ●法規制の遵守

当社では、省エネ法<sup>\*1</sup>および温対法<sup>\*2</sup>、化管法<sup>\*3</sup>、化審法<sup>\*4</sup>、廃掃法<sup>\*5</sup>など環境関連法規制の改正への対応について、行政や工業会などから提供される情報を収集後、化学物質関連法情報のイントラネット活用システムに登録し、関連する部門に周知・徹底しています。

また、「廃棄物管理規程」などの社内規程を定め、適切な管理体制を構築しています。2018年においても罰金、料料などを処せられるような違反はありませんでした。

素要求量(COD)の低減にも努めています。

化管法PRTR制度<sup>\*6</sup>に基づく化学物質管理に関するデータは、Webサイト上に公開しています。今後も、適正な届出と排出量の管理を強化していきます。

2018年度PRTR対象物質の排出量(国内グループ)

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/pdf/prevention.pdf>

#### ※1 省エネ法

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の略称。

#### ※3 化管法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称。

#### ※5 廃掃法

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称。

#### ※2 温対法

「地球温暖化対策の推進に関する法律」の略称。

#### ※4 化審法

「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称。

#### ※6 化管法PRTR制度

化学物質の排出量などを把握し、集計・公表する制度。

### Webサイトのご紹介



地球環境とともに

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/>



暮らし、まいにち、エコ。

<https://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/#sec4>

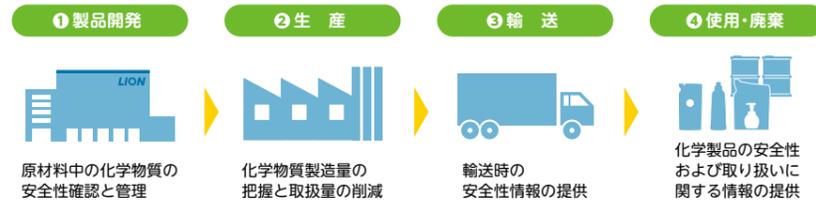
## ライオングループの化学物質管理の充実

化学物質は、生活を便利で快適にする上で欠かせないものですが、適切な管理を怠り事故が起きた場合、人々の健康や環境に大きな影響を与えるおそれがあります。当社では、関連法規の遵守はもちろん、独自の基準に基づき、製品の開発から使用・廃棄までの各段階で、

化学物質の安全管理を推進しています。2018年より、「化学物質情報管理システム」を当社の研究開発拠点で運用しています。

[www. 化学物質管理](https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/)  
https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/

### ● 当社の化学物質管理



## ライオングループの環境への取り組み

### ● 「Eco Vision 2020」第3期(2018年)の実績

「Eco Vision 2020」は、2012～2020年の9年間で第1～第3の3期3か年に分けて推進しています。2018年は、第3期(2018～2020年)の初年度であり、2020

年の最終年度に向け、ライオングループ従業員が一丸となって環境への取り組みを推進しました。

### 主要項目(温室効果ガス、水)に関する2018年の主な取り組み内容

**CO<sub>2</sub>** 国内の事業活動からの温室効果ガス排出量

**49%削減**  
(1990年比、売上高原単位)  
・生産設備の集約  
・省エネ活動の推進

**CO<sub>2</sub>** 国内の商品使用後の温室効果ガス排出量

**53%削減**  
(1990年比、売上高原単位)  
・商品コンパクト化や植物原料への切替  
・つめかえ用製品の拡販

**CO<sub>2</sub>** 海外の事業活動からの温室効果ガス排出量

**2%削減**  
(2017年比、生産量原単位)  
・各工場の省エネ施策の推進

**Water** 国内の事業活動での水使用量

**48%削減**  
(2000年比、売上高原単位)  
・節水活動の推進

**Water** 工場排水のリサイクル

千葉工場  
製造工程で排水リサイクルを安定稼働中

#### コラム1

東京オフィス(両国)では、電力使用状況の見える化による効率的な節電対策が優良事業者として「平成30年度エネルギー管理優良事業者等関東経済産業局長表彰」を受賞しました。

また、大阪工場(堺市)と大阪オフィス(大阪市)の2事業所が所在する大阪府が主催する、平成30年度「おおさかストップ温暖化賞」において、温暖化の防止等に、特に優れた取り組みをした事業者として、大阪府知事賞を受賞しました。



エネルギー管理優良事業者等  
関東経済産業局長受賞



おおさかストップ温暖化賞  
大阪知事賞受賞

貢献したSDGs:

### ● 「Eco Vision 2020」第3期(2018年)実績値と目標値表

項目		2018年実績値	2020年目標値
低炭素社会の実現	事業所内 温室効果ガス国内	①事業活動からの温室効果ガス削減 売上高原単位 35%削減(2010年比) 49%削減(1990年比) 絶対量 48%削減(1990年比)	売上高原単位 34%削減(2010年比) 49%削減(1990年比) 絶対量 40%削減(1990年比)
	事業所外 温室効果ガス国内	②商品使用後に排出される温室効果ガス削減 売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 51%削減(1990年比)	売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比)
	事業所内 温室効果ガス海外	③海外の事業活動*1からの温室効果ガス削減 生産量原単位 2%削減(2017年比)	生産量原単位 毎年1%削減
	事業所外 温室効果ガス海外	④海外の商品使用後に排出される温室効果ガス削減 年間5.2万トン削減	年間10万トン削減
循環型社会の実現	事業所内 水	⑤事業活動での水使用量削減 売上高原単位 33%削減(2010年比) 48%削減(2000年比) 絶対量 47%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 35%削減(2000年比) 絶対量 23%削減(2000年比)
	事業所外 水	⑥商品使用時の水使用量削減 売上高原単位 29%削減(2010年比) 54%削減(2000年比) 絶対量 52%削減(2000年比)	売上高原単位 17%削減(2010年比) 45%削減(2000年比) 絶対量 33%削減(2000年比)
	廃棄物	⑦事業所でのゼロエミッション*2 国内全事業所*4でゼロエミッション継続	国内全事業所*4でゼロエミッション化
	排水	⑧工場排水*3のリサイクル 千葉工場における製造工程排水リサイクル安定稼働中	複数工場で工場排水をリサイクル
自然共生	調達	⑨生物多様性に配慮した植物油脂の調達 RSPO*5認証パーム油誘導体の購入継続中	全購入パーム油誘導体のRSPO認証化
	生物多様性	⑩生物多様性保全活動の活発化 ライオン単体全工場での実施、関係会社・オフィス系事業所での実施拡大	国内全事業所での実施
啓発	社会への意識啓発 ⑪お客様への環境啓発活発化	啓発活動へのお客様参加人数の2.2倍増(2010年比)	啓発活動へのお客様参加人数の倍増(2010年比)

\*1 対象範囲は2018年12月31日現在の連結子会社

\*2 廃棄物総発生量の再資源化率を99%以上とする。ただし、再資源化の残さは含まない

\*3 製造工程で発生する排水

\*4 千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場、平井事業所、札幌オフィス、仙台オフィス、本社・東京オフィス、名古屋オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所、ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)四日市事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)小野事業所、ライオンパッケージング(株)福島工場

\*5 Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

## ●低炭素社会・循環型社会の実現

当社は、原材料調達から廃棄までのすべての段階で、温室効果ガスの排出削減や資源の循環利用・有効活用を進めています。詳細なデータはWebサイトに開示しています。今後も低炭素社会・循環型社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

### 当社の低炭素社会・循環型社会の実現に向けた事業活動の全体像



Web① [低炭素社会の実現] URL <https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/>

Web② [循環型社会の実現] URL <https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/>

### コラム2

#### 異業種3社往復共同幹線輸送により「国土交通大臣表彰」を共同受賞

近年の物流業界では、ドライバー不足、物流費の上昇、CO<sub>2</sub>の排出などが深刻な社会課題となっています。このような中、同じ課題を持っていた異業種3社が連携し、2018年8月から、船舶(フェリー)利用によるモーダルシフトの共同幹線輸送を開始しました。

取り組みの結果、空車回送を大幅に削減し実車率の向上<sup>\*1</sup>、長時間運転の解消によるドライバーの労働環境改善、CO<sub>2</sub>排出量の削減<sup>\*2</sup>に貢献するなどの効果が得られ、その活動結果として、「平成30年度グリーン物流パートナーシップ会議優良事業者表彰」において国土交通大臣表彰を共同受賞しました。

当社は今後も、業界業種に関わらず、パートナーとなりうる企業と積極的に取り組みを広げ、持続可能な物流網の構築を進めていきます。



平成30年度グリーン物流パートナーシップ会議授賞式

貢献したSDGs:

効果:拠点のある関東~九州の往復で

※1 実車率99%超の実現

※2 CO<sub>2</sub>排出量62%の削減

## ●自然との共生

湖沼の富栄養化や洗剤の使用と関係のある河川の発泡などの水環境問題に、古くから率先して対応してきた当社は、原材料調達から廃棄までのすべての段階で生物多様性に配慮してきました。しかし、将来にわたり生物多様性の恵みを享受するためには、地域社会などと連携して生物多様性の保全に取り組み、その恵みを使い果たすことのないよう、持続可能な利用を進める必要があります。また、生物多様性に配慮した製品を通して生活者のライフスタイルの変化を促し、自然共生社会の実現に向けて貢献することが重要です。

### 当社の生物多様性保全に配慮した事業活動の全体像

当社が依存している生物多様性	原材料生産地の流域*生態系	各工場が立地する流域生態系	消費者が生活する流域生態系
当社が利用している主な天然資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用原料となる植物(アブラヤシなど)</li> <li>●包装材料である紙の原料となる木材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場で使用される冷却水、設備洗浄水などの原水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商品使用時の上水</li> </ul>
当社の活動が生物多様性に与える主な影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パーム農園の自然環境や地域社会への影響(熱帯雨林の違法伐採による野生生物の生息地への影響など)</li> <li>●紙の原料となる森林環境の損傷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場での地下水などの取水による、周辺の自然環境や地域社会への影響</li> <li>●工場からの排水や排ガスによる周辺の自然環境や地域社会への影響</li> <li>●工場で使用される光や香りなどによる周辺の自然環境や地域社会への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消費者の水使用による自然環境や地域社会への影響</li> <li>●消費者からの排水や容器包装の廃棄による自然環境や地域社会への影響</li> </ul>
リスクの低減につながる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●持続可能なパーム油の調達の推進(RSPOへの参加、RSPO認証油の購入) → 関連情報 p.49</li> <li>●森林の保全の推進(第三者認証紙の利用) → 関連情報 p.49</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場廃棄物の削減 → 関連情報 Web②</li> <li>●工場の水使用量の削減 → 関連情報 Web②</li> <li>●浄化技術を組み合わせた排水の放流による河川、海などの生態系保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●節水型商品の開発</li> <li>●生分解性の高い洗剤の開発 → 関連情報 Web②</li> <li>●界面活性剤の環境への影響調査 → 関連情報 Web③</li> </ul>
機会の拡大につながる活動	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場が立地する流域での生物生息地の保全とモニタリング(アカウミガメ保護活動、ビオトープ整備活動、海岸の外来植物駆除活動など) → 関連情報 Web④</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水・自然環境の配慮に関する普及啓発活動(ライオン山梨の森)の森林整備「日本水環境学会」を通じた水環境研究支援 → 関連情報 p.55</li> <li>●3Rの推進(つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生ペット・薄肉化などの容器の開発) → 関連情報 p.54、Web②</li> </ul>

\* 流域:水でつながる森林、河川、里山、干潟、海浜などの生態系。

Web③ [自然との共生] URL <https://www.lion.co.jp/ja/csr/env/biodiversity/>

Web④ [生物多様性保全への取り組み] URL <https://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/>